<鷹島支所>

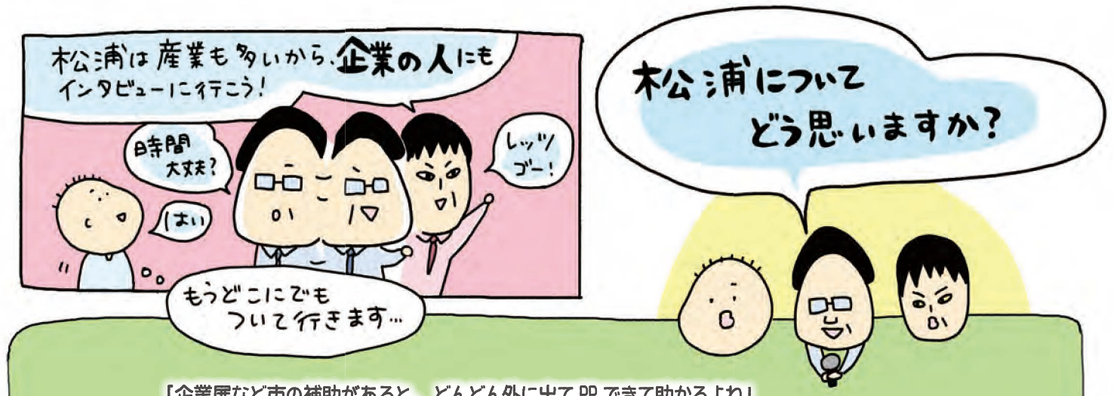
- 生活圏は唐津のイメージがある
- 唐津に勤めている人が 10 年でとても多くなった
- 子どもの高校進学と同時に唐津に家を建てる人も増えた
- 島の人口 2000 人切った
- 出生数 7 人（2018 年度）
- 橋がかかってから佐賀・福岡・久留米の釣り客がかなり増えた
- 「海の市」海産物＆BBQ を年2回（春・秋）やっている

<福島支所>

- 福島鷹島いろいろ違いはあるが、同じ島同士一緒に考えていく視点必要
- 棚田の火まつりは地元の人が超がんばった。人は、いっぱい来たけど疲れて一度なくなった。そして、また復活した
- 観光をメインにやってきた
- 青年団の活動をあまりしなくなった。婦人会もなくなった

<消防>

- 平成 30 年は火災 11 件、救急 約 1000 件
- 火事のイメージといえば建物だけど実際は枯れ草、ごみ焼却からの火災が多い
- 救急車での搬送は市外（佐世保、伊万里、唐津）が 6 割くらい
- 2025 年問題といえば、団塊の世代が 75 歳以上の後期高齢者になるので、救急が増えるかも!?
- 鷹島には福島から応援に行くことも。30 分くらいのタイムラグがある
- 10 年前に比べ事務作業が飛躍的に増えている
- 地元消防団は地域に密着している。道に詳しい。地元の人の顔がわかる
- 西九州自動車道ができ搬送時間が短くなり救急の体制が充実した



「企業展など市の補助があると、どんどん外に出て PR できて助かるよね」

「うちの会社は、資格・スキルを持つ人が入社したいと来るよ。ポケットコイルを作る機械はここだけだから」

「受注生産。一品一品違う。一人一人の責任が大きい。ものづくりの醍醐味がありエンジニアとして誇れる」

「うちの従業員は近隣出身者が多いよ。従業員35名の半分は松浦、佐世保、平戸など」

「結構海外出張が多いんだよね」

「市工業会を立ち上げてから国や県など各方面の情報を得られるようになった。企業間での情報交換をできるのもいいね」

「商工会議所は商が中心のイメージ。工の人も入っているけど・・・」

「人口も減り従業員の確保が難しくなるかもしれないので定年の延長など考えないといけないかな」

「インターンで来た学生は、生産現場を見ると目の色が変わる」

「東南アジアの方は真面目に働いてくれるので、3年の定期ではなく、長期間働いてくれると助かる」

「工場の人員不足は課題。定年を 60 歳から 65 歳にした」

「年齢が高い人が技術力を支え、若い人が生産量を支えてくれている」

「人員確保は企業間で協議しているが、人が集まらない。採用を出しても応募がない。女性社員がほしい」

「職場の雰囲気づくりを大切にしている。上司部下の境なく、家族を含めて交流すると楽しさ、一体感がでる」

「昔は応援合戦があった。3000 人で運動会があった。チームビルディングの効果があったと思う」

「昔は給料がよく社員旅行の反応は『やったー』
今は給料が低く社員旅行の反応は『だったら給料上げてよ』」

「国内縫製業 2.4%、海外が主だったが近年国内産への見直しが進んでいる」

「今の世の中の製品は本質ではなくイメージがすべてのような気がすることも」

「ものを大切にする感覚がものづくりへのこだわりへとつながるのではないか?!」

「日本に昔あったこだわりは希薄になっている。それが子どもたちの目に触れない、受け継がれない」

「働くということを考えた時、地元に残るメリットは何もないのではと考えることも」

「ビジネスチャンスがある。人が少ないことで探したい人に出会え情報を得やすい」

「『松浦でもいいじゃん』『松浦の方が稼げるよ』松浦じゃできないと思っている人が多い。夢がみられないまちでもないよ」

「松浦は疲れないと思うよ。松浦に慣れると都会の通勤ラッシュは疲れる w」

「夢が実現しやすいイメージ。ママ友がお店しているイメージが湧く」

「企業があるのに人口増えない。若者『何もないから』と帰ってこない。なぜだろう?」